

東芝キャリア(株)富士事業所 サイトレポート情報

所在地 : 静岡県富士市蓼原336番地

敷地面積 : 228,229㎡、建家面積 : 115,264 ㎡、緑化率 8.38%

設立 : 1999年4月、従業員 : 1,007人 (2022年7月現在)

主要製品 : 空調機器、ヒートポンプ給湯機、冷蔵・冷凍機器、換気機器、コンプレッサー

ISO14001認証取得 : 1997年4月、最新更新年月 : 2021年4月 (ISO認証番号 : EC97J1014)



ごあいさつ

東芝キャリア(株) 富士事業所は、富士山の麓に位置し、ビル・オフィス向け空調機、ヒートポンプ給湯器、冷蔵・冷凍機器、換気機器、コンプレッサーなどを製造しています。世界各地のお客様に、快適な住空間を提案しつつ、環境調和型製品の社会への提供および環境負荷の低減に配慮した生産活動を通じて、社会に貢献することを従業員一丸となって取り組んでいます。



(環境保全責任者) 事業所長 榎原 毅

2021年度の環境の主な取り組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

- ・1997年4月に認証取得、2021年4月に8回目の更新
- ・2021年3月に3年次更新審査を受審し認証継続中。

☆エネルギー起源CO₂排出量の削減

- ・生産高原単位 : 52.01 t-CO₂/億円 (対目標 97.4%)
- ・空調機更新 ・各種エネルギー削減施策 など

☆廃棄物の削減

- ・総発生量 (有価物含む) 生産高原単位 : 4.82/億円 (対目標 88.4%)
- ・低最終処分率の継続 (0.13%)

☆化学物質排出量の削減

- ・塗料、シンナー等の大気排出量削減 : 排出量3.3t (対目標 79.5%)

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

2021年度 業界トップの環境性能を有するエクセレントECP (Environmentally Conscious Products)

換気機器

■パイプ用ファン サイレントクリーンファン (日本向け)

代表機種: VFP-C8MSSL

ファクター(2021年/2000年) = 1.39

- ・年間CO₂排出量(2021/2000): 5%削減
- ・新開発ファンにより大風量・低騒音実現
- ・製品小型化による環境影響低減



店舗・オフィス用エアコン

■ウルトラパワーエコ (1.5~2.5HP) (日本向け)

代表機種: ROA-RP563HX (2.3HP)

ファクター(2021年/2000年) = 5.02

- ・年間CO₂排出量(2021/2000): 55%削減
- ・省エネ性業界トップクラス APF2015 : 7.4
- ・低GWP冷媒 R32採用



ビル・工場用空調システム

■スーパーマルチu 暖太郎シリーズ (日本向け)

代表機種: MMY-MUP2241HN(8HP)

ファクター(2021年/2000年) = 3.18

- ・年間CO₂排出量(2021/2000): 27%削減
- ・省エネ性業界トップクラス APF2015 : 5.9
- ・封入冷媒量 61%削減
- ・軽量、コンパクト化による環境影響低減

○デマンドサイドマネジメント表彰

「経済産業省資源エネルギー庁長官賞」受賞



東芝キャリアグループ環境基本方針

東芝キャリアグループは、空調機器、給湯機器、換気扇、冷凍機、コンプレッサーなどの製品、およびそれらのシステムの開発・製造・販売・サービスを行う企業グループとして、環境調和型製品を社会へ提供すること、および環境負荷の低減に配慮した事業活動を通じて社会に貢献することを目指しています。そして、環境への取り組みを、企業経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「東芝グループ理念体系」のもと、人と、地球の、明日のために豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会をめざした環境経営により、持続可能な社会の実現に貢献し、新しい未来を始動させます。

【事業と調和させた環境経営の推進】

1. 事業活動、製品・サービスに関わる環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減に向けた環境目標を設定して、環境活動を推進します。
2. 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
3. 環境に関する法令、当社が同意した業界の指針および自主基準などを遵守します。
4. 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
5. グローバル企業として、東芝グループ一体となった環境活動を推進します。

【事業活動での環境負荷低減と環境調和型製品・サービスの提供】

1. 地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品・サービスの両面から有効な利用、活用を促進する積極的な環境施策を展開します。
2. 製品のライフサイクルを通して環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品・サービスを提供します。
3. 設計、調達、製造、物流、販売、廃棄などすべての活動段階において、気候変動への対応、資源の有効活用、化学物質の管理などの環境負荷低減に向けた施策に取り組みます。
4. 持続可能な社会の実現のため、社会に与える価値や意義を考え、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。

【ステークホルダーとの連携】

1. 地域・社会をはじめとするさまざまなステークホルダーと積極的なコミュニケーションを図り、連携した環境活動を推進します。

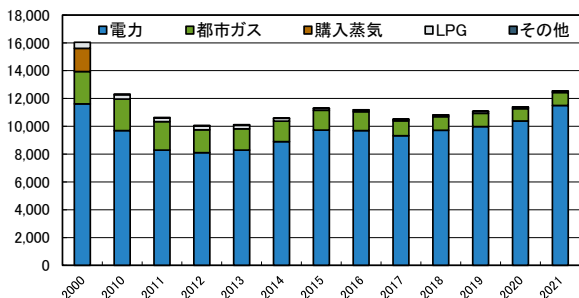
2021- 4- 1 （T C C）環境保全責任者

環境目標

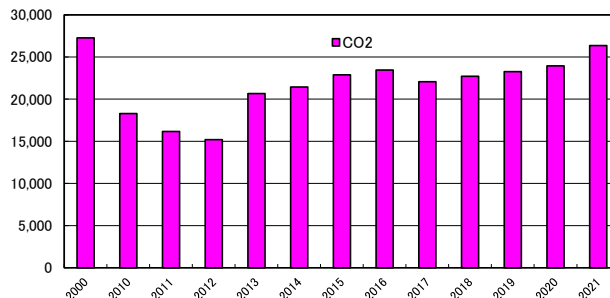
中計項目		単位	2022年度
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂	原単位	t-CO ₂ /億円 19.3
	温室効果ガス(HFC)	排出量	t-CO ₂ 905
資源有効活用	廃棄物	原単位	t/億円 5.00
		ゼロエミ	% 0.4
	水受入量原単位	原単位	m ³ /億円 1,079
化学物質管理	化学物質排出量	総量	t 3.4

環境負荷データ

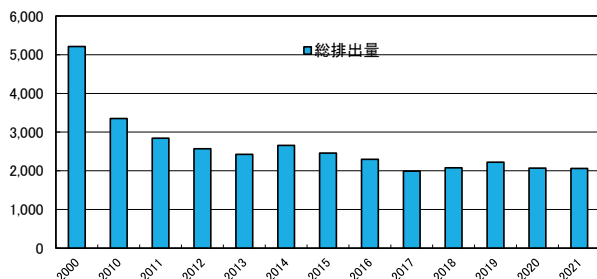
エネルギー使用量 (単位: KL)



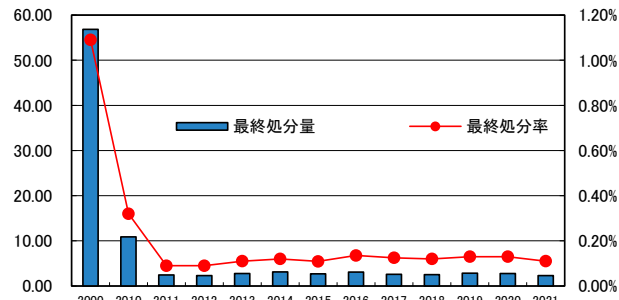
CO₂排出量 (単位: トン-CO₂)



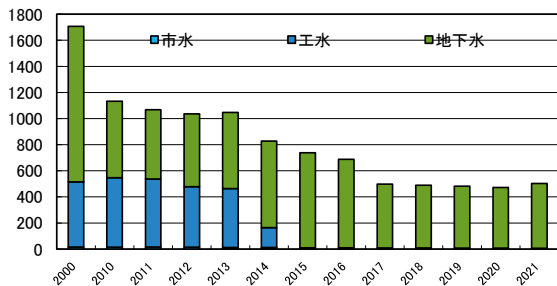
廃棄物総発生量 (単位: トン)



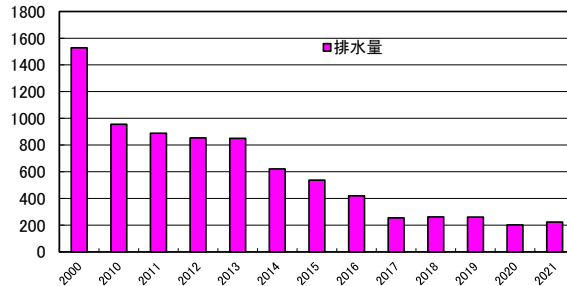
廃棄物最終処分量と最終処分率 (単位: トン, %)



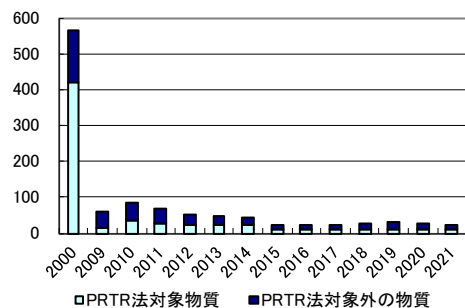
水の使用量 (単位: 千m³)



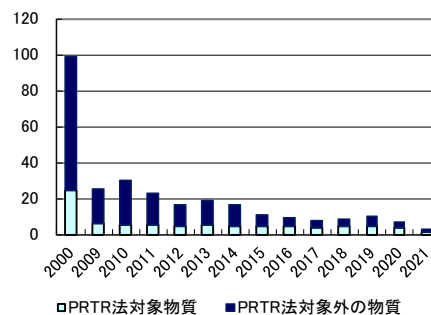
排水量 (単位: 千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量 (トン)



化学物質削減対象物質の排出量 (トン)



遵法管理状況

<大気測定結果> (水管式ボイラ 1台 (2013年9月廃止)、小型貫流ボイラ 6台 : 法的測定義務なし)

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx (ppm)	—	—	—	—
SOx (Nm3/h)	—	—	—	—
ばいじん (mg/Nm3)	—	—	—	—

<排水測定結果> 測定日: 2021-12-3 酸又はアルカリ表面処理施設: 25施設、有害貯蔵施設: 2施設
河川 (田子江川) へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度*2
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6	6.4~8.4	7.5	1回/年 (2回/日)
BOD (mg/ℓ)	20/30 *1	15	1.4	1回/年
COD (mg/ℓ)	20/30 *1	15	2.7	1回/年 (2回/日)
SS (mg/ℓ)	20/30 *1	15	2.0	1回/年 (2回/日)
トリクロエチレン(mg/ℓ)	0.1	0.01	0.01未満	1回/年 (1回/日)
ほう素及びその化合物 (mg/ℓ)	10	5	1未満	1回/年
3N*3 (mg/ℓ)	100	10	1.0	1回/年

*1 : 日間平均/日間最大 (静岡県条例) *2 : 外部計量機関による頻度 () 内は社内測定頻度
*3 : 3N (アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)

<騒音・振動測定結果> 特定施設 (騒音 1378施設・機械プレス、他) (振動 564施設 機械プレス、他)
測定日: 2022-1-7...5 測定点のうち、住居隣接区西境界1点 (# 201西A)の測定結果

	測定場所: 時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音 (dB)	敷地境界: 昼間	65	60	50	2回/年
	敷地境界: 朝・夕	60	60	52	2回/年
	敷地境界: 夜間	55	55	49	2回/年
振動 (dB)	敷地境界: 昼間	70	50	31	2回/年
	敷地境界: 夜間	65	50	30	2回/年

<その他測定結果> (下水道法: 法令上の特定施設なし。) 測定日: 2022-1-13

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
BOD (mg/ℓ)	600	300	184	4回/年
ルルル抽出物 (mg/ℓ)	30	27	5.5	4回/年

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

<富士山麓ブナ林創造事業参加 >

雨の中の開催ではあったが、事業所からは富士事業所長など、ご家族含む17名で参加。（エコスタイルリーダー活動）

（実施概要）

- ・日時：2022年4月29日
- ・活動場所：富士山麓（富士市）
- ・参加人数：17名



生物多様性の保全への取り組み

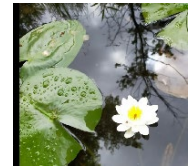
ビオトープの状況

- ・昨年水バランスの影響でメダカの数減ったが、供給水を改善しこの春稚魚も多数生まれ、個体数は維持されている。
- ・年末年始、GWの連続停電でのポンプ停止対策としてソーラーポンプで対応。水位を維持した。

田子江川自主調査（22年度計画）

3年前に専門家による排水先の田子江川の水生生物調査を実施したが、今年度は（富士環工）による自主調査を実施し、水生生物の経過を確認する。

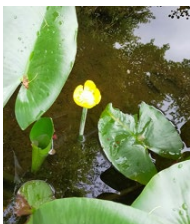
スイレンの花
(2022年4月ビオトープ)



田子江川
自主調査（22年度計画）



コウホネの花
(2022年4月ビオトープ)



アオモンイトトンボ
(2022年4月ビオトープ)

